

(様式2)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 28 年 3 月 19 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3492100031		
法人名	社会福祉法人 口和福祉会		
事業所名	グループホーム口和		
所在地	広島県庄原市口和町永田413 (電話) 0824-89-2700		
自己評価作成日	平成27年9月1日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	(社福) 広島県社会福祉協議会
所在地	広島県広島市南区比治山本町12-2
訪問調査日	平成27年9月18日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

庄原市口和町は自然豊かな地域です。ここにグループホーム口和はあります。グループホーム口和は1ユニット9名の入居者の皆様が生活をされており、皆様それぞれの役割りをもたれ毎日の生活の中で発揮されておられます。職員はそれをお手伝いさせて頂いております。また毎日の散歩は欠かさず皆さんそろって出掛けられます。地域の皆様とも顔なじみの関係を築いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

グループホーム口和（以下、ホーム）は、庄原市口和町の田畑や緑の山々が広がる自然豊かな環境の中にあります。社会福祉法人口和福祉会を母体とし、法人では施設・通所・地域密着型サービスを包括的に提供しながら、地域の高齢者福祉に貢献されています。ホームでは、職員が意見や提案を積極的に出し合い、入居者一人ひとりのこれまでの生活背景を把握したうえで、その人に合ったケアの支援をめざしておられます。また、入居者ごとに作成した「24時間シート」を活用することで、本人の思いに柔軟に対応したり、日々の暮らしの中で思いを汲み取ったり、「できること」が生きがいに繋がる支援を実行されていることが伺えました。

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
I 理念に基づく運営(1ユニット)					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「小さな気遣いが大きな安心」がグループホーム口和の理念です。細かな気遣いを心掛け入居者の皆様が安心して生活が営めるよう日々の実践に取り組んでいます。	ホーム独自の理念を掲げておられます。玄関の目のふれやすい場所に、大きく理念を掲示されています。職員は、入居者のペースに合わせて対応し、笑顔で優しく、わかりやすい言葉で接し、理念に添ったケアの実践が伺えました。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	散歩や通院、散髪などを通じて地域との関わりを継続しています。	法人の夏祭りに地域住民の参加があります。過去には、近隣の小学校で、他の事業所の協力を得ながら疑似・車椅子体験の講師として活動するなど、ホームの持つ機能を地域に還元されています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	キャラバンメイトへの参加と庄原市社会福祉協議会口和地域センターと協働して地域の中学校小学校訪問し体験学習、啓発学習など実施しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	行政関係者、保健師、社協のセンター長を招き、事業報告やアドバイスなどいただいております。また地域で活動されている方との交流会なども盛り込み実施しております。	会議は、年間6回開催されています。会議の内容は、ホームでの活動や取り組み状況などを映像を用いて説明されています。時には、赤十字病院の看護師に参加してもらい、感染症対策についての勉強会を実施されています。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	地域包括支援センターの保健師や社協と協力関係を築いています。また週1回のミニ調整会議、月1回の地域ケア会議へ出席し各関係機関との情報共有を図っています。	運営推進会議には、市支所職員の参加があり、ホームの現状を直接理解してもらう機会となっています。法人では、社会福祉協議会と連携を図り、独居の高齢者の見守りに取り組まれています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	法人内研修に職員全員が参加し身体拘束について理解を深めています。	職員は、法人研修やホーム内で実施する勉強会を通して共通の理解を深めておられます。ホームの中だけで過ごすのではなく、散歩やホーム玄関に出てゆっくり楽しみながら外気にふれるなど、安全を確保しつつ自由な暮らしの支援となるよう努められています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待について法人内研修に参加。グループワークを行いながら毎日の言動や行動を振り返り、職員同士で注意しあえる環境作りに努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護指針を作成し掲示しています。職員ひとりひとりが意識を高め行動しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時は担当職員が分かりやすく説明をしています。契約後でも疑問や質問があればその都度説明をしています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関入口に意見箱を設置しています。面会時や電話でも意見や要望などを受け付けています。また1カ月に1回メッセージカードに入居者様の様子を書き添えてご家族様にお送りさせてもらっています。	家族会を年1回開き、映像を用いて入居者の普段の様子を伝え、家族との交流を通して意見が言いやすい環境を整えられています。遠方に住む家族が多いため、電話や面会時に意見などを聞かれています。また、利用明細書送付の際にメッセージカードを添えるなど、より多くの意見が引き出せるよう工夫されています。	

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	会議や業務の中で意見や職員の提案など聞き取って業務に反映出来るよう取り組んでいます。	職員の意見や提案は、その都度協議されています。また、管理者は率直な意見や気持ちを取り入れるために、職員と個人面談などの話し合いの場を設けておられます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の意見も聞き取り、働きやすい環境作りをしています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内研修を実施。職員全員参加で取り組んでいます。出席できなかった職員には後日伝達研修を実施しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	外部研修に参加し他の事業所の職員と情報交換を行なっています。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	本人様、家族様からの要望や願いなど聞き取り本人様が安心して生活が出来るように支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族様が思う要望、不安な事など入居前、入居後問わず安心していただけるようにいつでもお話しを出来る関係作りに取り組んでいます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	必要としている支援は行なっていますが、他のサービスを含めた対応は現在のところはありません。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ともに生活をしている家族のように接して安心と安らぎをお互いに共有して生活しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族様にメッセージカードを送り1カ月の様子を家族の皆様に送っています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	通院や散歩、散髪などを通じてなじみの関係が途切れないよう努めています。	入居者のこれまでの生活歴や大切にしてきたことなど、日々の生活での会話や家族からの情報を基に把握されています。家族の協力で、自宅に帰る入居者もおられます。また、入居して新たにできた馴染みの人との関係も途切れないよう支援されています。	

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居様同士上手く交流が出来るように職員が援助しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	併設施設に入居された場合には訪問などその方との交流を継続しています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	おひとりおひとりに個別にお話を聞きながら現在の状況を把握しています。検討課題がある場合は職員、管理者で会議を開催しています。	入居者の生活背景を把握し、一人ひとりの特性を活かすよう支援されています。また、日々の暮らしの中で、入居者とコミュニケーションをとり、昔からやってきたことや新たな発見など、本人の思いを汲み取るよう努力されています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前や入居後からの本人様のお話しや家族様からのお話しで得た情報を職員間で共有し本人様にとって心地の良い環境作りを実施しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	入居前からのアセスメント、入居後からの24時間シートからの情報をもとにその人の生活パターンを把握しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	職員全員で24時間シートの作成に取り組む、ケアプランに反映させ統一した介護に取り組んでいます。	ケアマネジャーを中心に、モニタリングの実施とケアプランの作成が行われています。「24時間シート」には、入居者ごとの生活のリズムと必要なサポートについて分かりやすく記載されています。また、気づきがあればその都度更新されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケース記録や日誌を確認しながら情報を共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	自然災害などにも対応した事例もあります。もしもの時の対応ができるように体制を整えています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域ケア会議に出席して情報収集をしています。常に地域での出来事を把握して、グループホームの入居者の皆さんが安心して生活ができるよう取り組んでいます。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	主治医、歯科医師と日ごろから連絡を取り合い情報交換を行っています。また月に1度は定期通院を行い緊急時に対応できるよう取り組んでいます。	入居者はこれまでのかかりつけ医を利用されています。受診には職員が付き添われています。嘱託医療機関、協力歯科医院はホームから徒歩で行ける距離にあり、緊急時には適切な対応ができるよう綿密な連携が図られ、安心感があります。	

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	併設施設看護師と連絡、報告の体制が整っており、緊急時の対応に備えています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の状態を家族や医療機関などへ聞き取りを行い本人様が退院されても安心して生活ができるよう取り組んでいます。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化については併設施設や嘱託医の指示のもと医療機関につなげています。口和福祉会の方針については契約時に家族様に説明し同意をいただいています。	重度化した場合の対応については、ホームの方針を入居時に説明されています。重度化の兆候が見られる場合には、医師の指示に従い、関係機関へ繋げておられます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	法人内で研修会を実施。心肺蘇生法からAEDの使用方法について勉強会を実施しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	法人内で年2回火災避難訓練を実施しています。火災時の消火訓練や避難経路の確認をしています。	訓練は、消防署の立ち会いで行われています。過去には、地域住民が訓練に参加した事例もあります。法人では、災害時の避難場所として地域住民を受け入れる体制を整えておられます。	

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	研修会を開催し権利擁護の知識を深めています。職員ひとりひとりが共通意識を持ち業務に取り組んでいます。	ホーム独自で「入居者権利擁護指針」を作成し、職員が共通の意識を持ちながら支援できるよう、勉強会を通して理解を深めておられます。名前を呼ぶ際は「さん」付けを徹底されています。職員は、入居者の特性に合わせて声をかけ、一人ひとりの人格を尊重した対応が伺えました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日常生活のなかで入居者の皆様が自分らしく表現ができるように関わりを持っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	基本的なスケジュールはありますが、ひとりひとりの生活リズムを大切に安心して生活ができるように援助しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	その人らしく表現できるようにオシャレや身だしなみ、整容のお手伝いをさせていただいています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	その季節に収穫できる野菜を育てています。収穫時期には皆さんでいただいています。また嗜好調査も実施して皆さんの好み、食べたいものなど把握に努めています。	毎食、職員手作りの食事を提供されています。職員は、入居者と同じテーブルを囲み、会話を楽しみながら食事をされています。時には、畑で採れた野菜を使い、焼肉やすき焼きなどを楽しまれています。	

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事がおいしくいただけるように工夫をしながら食事の提供をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケアを実施しています。また治療が必要な方については歯科受診に対応しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	自立した排泄ができるように昼夜の排泄リズムを観察して24時間シートに記録しています。	トイレには、十分な介助スペースがあります。24時間シートやその日の状態に応じて、一人ひとりの排泄リズムや課題を把握し、声かけ・見守りを徹底し、自立に向けた支援をされています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘にならないように日ごろから散歩や食事、水分補給に気を付けながら便秘の予防に努めています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入居様が安心して気持ちよく入浴ができるように支援しています。	2日に1回を基本に、希望があれば毎日でも入浴することが可能です。個浴で、浴室にはエアコンが設置されています。ゆず湯や入浴剤を使用し、入浴が楽しめるよう工夫されています。	

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	入居者様ひとりひとりにあった休息をとってもらっています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	医師からの説明と看護師との連携で服薬管理を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	食事の準備、掃除などそれぞれの役割を持って活動できるように生活支援を行っています。またその人ができることできないことをその都度把握できるよう努めています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	毎日の日課である散歩を中心にドライブや外食といった楽しみも取り入れて入居者の皆様に楽しんでいただけるよう取り組んでいます。	入居者は、ホーム周辺の散歩や畑仕事、玄関の花壇の水やりを日課とされています。初詣やフルーツ狩りなどに出かけ、季節を楽しみながら気分転換を図っておられます。また、墓参りや自宅へ行くなど、個別の外出支援が行われています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人様がお金を管理して自立に向けた生活を支援することが大切なことは理解していますが、法人全体の取り組みとして原則金銭の持ち込みは禁止にしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	入居者様がいつでも連絡がとれるよう支援しています。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用の空間にはソファを設置して皆さんがゆっくりと過ごせるようにしています。また新聞や雑誌などもあり好きな時に観ることができます。	平屋建ての建物中央に庭があり、ロの字にガラス張りとなっているため、室内が明るく開放感があります。共有空間とキッチンが一体的で、入居者が食事の準備などを手伝いやすい造りです。ホームの玄関には、プランターに植えられた花やベンチが設置されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビング、廊下に椅子を設置しておりいつでも一人になれる空間を用意しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居者様が以前から愛用されていた愛用品や使い慣れたものがあれば持ち込んでもらえるようお願いしています。新聞など個人でとられていた方も入居後も変わらず新聞を取っていただけます。	洋室の居室に、エアコン、カーテンが備えつけられています。入居者は、家族と相談しながらベッドやタンスなど使い慣れた物を持ち込み、居心地良く過ごせるよう工夫されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	入居者様が安心して生活ができるように職員同士で情報を共有し自立に向けた生活を支援しています。		

V アウトカム項目(1ユニット)			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式3)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム口和

作成日 平成 28 年 3 月 28 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点，課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		年2回，火災避難訓練を実施しているが，その他の災害訓練は実施していない。施設周辺には河川があり，氾濫の危険性もあるため，今後は，避難経路を確認し，安全に避難できるように計画・実施を行う。	水害時の避難経路の確認と訓練の実施。	避難場所，経路の確認。避難計画書の作成を行い実施する。	1年
2					
3					
4					
5					
6					

注1) 項目番号欄には，自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は，行を追加すること。